

【座間市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

「座間市学校教育情報化推進計画」に記載してある、「世の中の様々な情報に対応し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見し、解決したり考えを形成したりする力」の育成を目指す。

それに伴い、GIGA スクール機想の実現を踏まえ、児童生徒1人1台端末の環境におけるICTの効果的な活用を一層促進するとともに、教師のICT活用指導力の向上を図る必要がある。

ICTの活用を通して多様性のある児童生徒の学びを深めるために、授業の中で個別最適な学びと協働的な学びが実現するように研究していく。

新たな創造の時代への過渡期と言われる現代は、急速な変化を伴い予期せぬ影響に対応しなくてはならない場面もある。このような時代に成長する児童生徒には、世の中の様々な情報に対応し、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見し、解決したり考えを形成したりする力を身に付けてほしいと願う。

座間市学校教育情報化推進計画より

2. GIGA第1期の総括

令和元年9月に246台導入、令和3年2月に9457台導入した。

児童・生徒1人1台、予備機も含め配付することができた。

導入当初はなかなか活用が進まないこともあったが、令和5年・6年の2年間リーディングDXスクール事業に参加し、指定校である中原小学校・西中学校を先頭に本市全体で授業においてDXを進めてきた。成果としては児童生徒が端末を使用する時間が増えていく。その結果、授業においてはクラウド環境を用いて、教員が児童生徒一人ひとりの進捗状況を把握することができ、児童生徒は他者参照したり、情報共有したりして活発に意見交流することができていた。

しかし、学校間や教員間で活用能力の差があることが課題である。

今後の方針は予備機を十分に確保すること。学習者用端末を用いて、複線型の個別最適な授業が行えるように各校研究を進めること。この2つを柱に授業・校務の両輪でDXを進めていきたい。

3. 1人1台端末の利活用方策

【今後の方策】

- ①予備機を十分に確保し、児童生徒の学びが止まらないように努める。
- ②学習者用端末を用いて、複線型の個別最適な授業が行えるように各校研究を進める
- ③端末の持ち帰りを推進し、児童生徒の主体的な学びにつながるよう促す。